

大洲市を守る消防団員の活動や取り組みを、シリーズでご紹介します。

## 消防団協力事業所の認定申請募集のお知らせ

消防団協力事業所として認定を受け、社会貢献などを行っている事業所としてPRし、イメージアップを図りませんか。

地域防災の中核的存在である消防団は、団員が年々減少しています。また近年の産業構造や就業構造の変化により、全国的に消防団員の約7割が被雇用者となっています。

このため、消防団員確保や活性化を図るためには、被雇用者が入団しやすく、かつ職場で団員として活動しやすい環境整備が求められていて、職場の消防団活動に対する一層の理解と協力が必要になっていきます。

そこで消防庁では、「消防団協力事業所表示制度」による活動環境づくりを推進していて、本市でも「大洲市消防団協力事業所表示制度実施要綱」を策定し、地域防災力の充実強化を図ることにしています。

### 認定基準

- ▽ 消防関係法令上の違反がなく、かつ次のいずれかに適合する場合
- ▽ 従業員が消防団に相当数入団している
- ▽ 事業所が従業員の消防団活動について積極的に配慮している
- ▽ 災害時などに事業所の資機材などを消防団に提供するなどの協力をしている

### 認定の手順

大洲市への申請書の提出  
 (申請書様式は、危機管理課に問い合わせいただくか、市公式ホームページからダウンロードしてください。)

大洲市による審査

表示証の交付

事業所への表示証の掲示

事業所のチラシやホームページなどへ認定事業所であるむね記載  
 事業所の皆様からの申請をお待ちしていますので、よろしくお願います。



表示証 (見本)

【申請・問い合わせ先】

危機管理課消防係

☎ 24 1742

## 文化財

平地番所跡  
 大洲市指定史跡 (史跡)  
 個人所有



平地番所跡は、現在の平野公民館近くに位置し、かつて大洲藩と宇和島藩の境にあった番所跡です。八幡浜街道沿いに、宇和島藩側の関所として置かれたものです。

番所とは、江戸時代に藩境の関所に置かれた藩の施設で、役人の詰所となった建物です。交通の要所に設置され、通行人や荷物の検査・税の徴収などを行いました。

現在の平野地区はもともと宇和島藩領ですが、平地村と野田村が合併して平野村となり、明治32年に西宇和郡から喜多郡に編入され、現在の大洲市域になります。隣接する大洲藩とは、大火など非常の際に相互に助けあうなど、当時より地域的なつながりが強かったと考えられます。

(昭和31年9月30日指定)

## 野鳥

アオバト (緑鳩)  
 ハト目ハト科  
 全長 33cm



寒波が到来し、山々が雪に覆われるころに里山で出合える、全身が緑色で腹部が黄色の美しいハトの仲間です。姿に似合わず鳴き声は独特で「アーオー、オーアー」と赤ちゃんの泣き声にも聞こえ、林の中で聞くと驚くことがあります。

ひと昔前は、鎮守の森などには空が暗くなるほどの群れが舞い、積雪が多く餌の乏しいときには、真っ赤に熟れたタマミズキに、何十羽も群れていましたが、現在はあまり見かけなくなりました。これは、繁殖地の常緑照葉樹の減少などが主な原因だといわれています。北アメリカ大陸に50億~100億羽も生息していながら、20世紀前半に絶滅してしまったりヨコウバトのように、将来が気になる野鳥です。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④

## 大洲市消費生活センター通信

冬の暮らしに潜む危険  
消費者事故に注意

今回は、今の時期に多発する「消費者事故」についてお伝えします。

## 【石油ストーブのトラブル】

カートリッジタンクに給油後、タンクのふたの閉め方が不完全だったために灯油がこぼれ、ストーブに引火し火災事故となった。

【対処】 給油時は必ずストーブを消火し、給油後、ふたが完全に閉まっていることを確認しましょう。

ストーブの上で乾かしていた洗濯ものが落下し引火。

【対処】 必ず、暖房器具から離して干しましょう。また、燃えやすいタオルやカーテンなどに注意しましょう。

ストーブをつけたまま就寝し、一酸化炭素中毒で死亡。

【対処】 密閉された空間で使用すると、酸素が不足し不完全燃焼がおこることがあります。就寝時には必ず消しましょう。

## 【こたつでのトラブル】

こたつ布団が中に入り込み、ヒーターに接触したため焦げた。

【対処】 こたつ布団などが、ヒーターに接触しないよう注意しましょう。また、こたつの中で服などを温めると、引火する恐れもあります。

## 【加熱時のトラブル】

冷たい牛乳を電子レンジで温め、取り出そうとしたところ、突然中身が噴き出した。

【対処】 「突沸」という現象です。飲み物やとろみのある食べ物などを温めた際に、過熱状態となり、そこへ刺激（調味料やスプーンなどの投入）が加わることで中身が噴き出します。温める前に中身をかき混ぜ、温めすぎた場合は少し冷ましてから取り出しましょう。また、コンロでみそ汁などを温める時も、よく混ぜてから加熱しましょう。

## 【問い合わせ先】

大洲市消費生活センター  
☎ 1790

## 【相談受付時間】

午前9時～正午、午後1時～5時  
(祝日除く月～金曜日)

リコール情報も確認を。  
(消費者庁ホームページ)



## おおずの女性 ～輝いて今～

## えひめ男女共同参画フェスティバル2014に参加

市内で男女共同参画の推進に努めている大洲市女性団体連絡協議会のメンバーとおおず女性塾の塾生が、愛媛県男女共同参画センターで開催された「えひめ男女共同参画フェスティバル2014」に参加しました。

このイベントは、11月29日(土)・30日(日)の2日間行われ、ステージ発表や展示・販売・体験コーナーのほか、男女共同参画社会づくり推進イベント企画募集事業に入選した4グループによる企画イベントなどの催しがありました。

30日の午後には、漫画家の里中満智子<sup>まちこ</sup>さんを講師に招き、「自分らしく生きる～ヒロインの意志を描く漫画家として～」と題した基調講演が行われました。漫画の主人公や登場人物に込めたメッセージや、描いている時の気持ちなどについて冗談を交えながら話され、参加した多くのみなさんは時折大きくうなずきながら聞き入っていました。

## えひめ男女共同参画フェスティバルとは

「公益財団法人えひめ女性財団」主催の、県民参画によるフェスティバル。男女共同参画への県民意識の高揚、推進を図ることを目的としている。



## 大洲藩主加藤家の文化財（第玖幕）

加藤泰候（かとうやすとき）



大洲藩9代藩主加藤泰候は、宝暦10年（1760）6代藩主加藤泰衡の4男として江戸に生まれ、明和6年（1769）兄で8代藩主の泰行の急死により、10歳で家督を相続しました。

泰候の藩主在任中は、明和9年（1772）、江戸三大大火の一つに数えられる明和の大火によって大洲藩の上屋敷が全焼したほか、天明7年（1787）4月には、大洲で115軒の家屋が流される未曾有の大洪水が発生するなど、相次ぐ災害に見舞われました。

また、一方で勅使下向供応役、関東筋ならびに豆州川々御普請手伝いなどの公役も命じられます。財政難にあった藩では、これらの経費を工面するため、上屋敷再建の際、大洲城中の丸屋敷を解体して江戸へ回送し再建の材料としたほか、家臣給与の削減、江戸屋

敷詰めや普請組の人数の削減を行うなど経費節減に努めました。さらに、製紙や砥部焼を奨励し藩が統制を図ることで藩の財政再建を行おうとしました。

このように財政再建に努めた泰候ですが、財政面だけでなく城中における挨拶儀礼、節句時の藩主へ挨拶できる家臣の範囲や序列、城内庶務の規定、服制などの規制改正といった諸改革を行います。さらに、分家である新谷藩に対しても、本家と分家間における家臣の格式や規律を布達するなど、行政・財政にわたる藩政改革を行いました。

しかし、天明7年7月、藩政改革も志半ばにして江戸において28歳で没しました。遺骸は江戸海禅寺に葬られますが、遺髪が大洲へ運ばれ如法寺に埋葬されました。墓所は、2代藩主加藤泰興の墓所の敷地内に造られています。



加藤泰候の墓所（如法寺）

## 大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

高輝度青色発光ダイオードの製造方法を発明・開発し、2014年にノーベル物理学賞を受賞した中村修二さん。今後、大洲市において、名誉市民の贈呈式と記念講演も予定されています。今回は、中村修二さんに関するクイズです。

## 【先月号のクイズの解答・解説】

明治時代に大洲の中心産業は製糸業でした。当時の人口約15,000人に対して、製糸業の仕事にかかわっていた人数は何人だったでしょう。

- ① 約1,000人（約7%）
- ② 約2,000人（約13%）
- ③ 約3,000人（約20%）

解答…③

解説…およそ20%もの人が関わっていたことになり、当時の一大産業だったことが分かります。その働き手は、ほとんどが女性だったようです。

大洲地方の生糸は、「伊予糸」と呼ばれ日本一ともいわれていて、伊勢神宮の第61回式年遷宮で使用されるほど高品質だったそうです。



※今月のクイズの答えは、広報大洲3月号に掲載します。

## 【今月のクイズ】

ノーベル賞授賞式の後、マスコミからのインタビューで、コメントを求められた赤崎教授は「大変緊張していました」、天野教授は「メダルはとても重いです」とコメントしました。

それでは、その時中村教授は、なんとコメントされたでしょうか。

- ① メダルは、まさに金色です
- ② メダルは、ただの金属です
- ③ メダルは、とても固いです





1月4日(日)

## 心も体もポッカポカ ～七草がゆ歩こう会～

今年で34回目となる肱南自治会主催の七草がゆ歩こう会が開かれ、約250人が参加しました。穏やかな天候のもと、市民会館を出発して地域内の神社を参拝し、城山公園交流広場までの約6キロを歩きました。

ゴールでは地元婦人会から七草がゆが振る舞われ、参加者たちは「おいしい」と、何杯もおかわりをしていました。



12月14日(日)

## 元気で、笑顔で、完走 ～第32回肱川健康マラソン大会～

12月の恒例行事となった肱川健康マラソン大会が開催され、141人が参加しました。

当日はとても寒い日でしたが、参加者のみなさんはとても元気で、笑顔で楽しんでいました。

地元のさわやかボランティアのみなさんから、豚汁とおにぎりを提供していただき、心も体も温くなりました。



1月6日(火)

## 一筆ごとに思いを込めて ～第47回大洲市小中学生新春書き初め会～

昔からある行事を大切に、書写能力の向上を図ることを目的に、新春書き初め会が喜多小学校で開催されました。

今年は市内の小学3年生から中学3年生までの230人が参加し、各学年ごとの課題文字に取り組みました。入賞者の中から選ばれた12人には、今後広報大洲の題字を飾ってもらいます。



12月21日(日)

## ロマンチックなイルミネーション ～豊茂イルミテヤ～

豊茂地区の冬の風物詩「豊茂イルミテヤ」が、閉校となった豊茂小学校の校舎を中心に、周辺の民家と一体となって実施されました。

来場した人たちは、甘酒や甘とろ豚汁などで体を温めながら、ハンドベルの演奏やミニコンサートに耳を傾け、光り輝く会場で幻想的なひとときを過ごしました。

## 大洲市民の歌「歌詞」およびシンボルマーク、ロゴタイプ決定

市町村合併10周年を記念して募集をしていました、大洲市民の歌「歌詞」（応募総数84点）およびシンボルマーク（応募総数171点）、ロゴタイプ（応募総数87点）が決定しましたのでお知らせします。

### ロゴタイプ

#### 最優秀賞

いせき たかお  
居関 孝男さん  
(京都府京都市)



### シンボルマーク

#### 最優秀賞

もり ひでお  
盛 秀雄さん  
(青森県青森市)



### 大洲市民の歌「歌詞」

#### 最優秀賞

はまだ たけし  
濱田 毅さん  
(長 浜)



#### 優 秀 賞

武智 哲也さん (松山市)  
遠藤 克也さん (山形県山形市)  
金津 博さん (新潟県上越市)  
児島 満さん (宮崎県宮崎市)  
塩崎 榮一さん (大阪府大阪市)  
庄司 義行さん (三重県四日市市)  
田代 卓さん (東京都目黒区)  
長谷川映路さん (愛知県春日井市)  
松岡 光雄さん (新潟県新潟市)  
三巻 靖子さん (新潟県三条市)  
三巻 保征さん (新潟県三条市)  
深川 重一さん (大阪府和泉市)

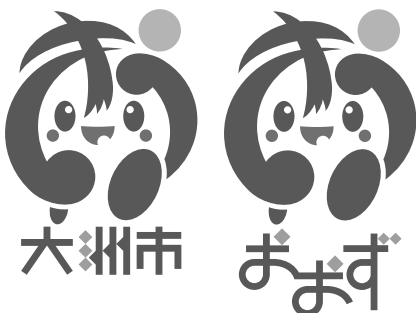
#### 優 秀 賞

近藤たかよさん (北 只)  
草野 敬一さん (長崎県長崎市)  
小池 友基さん (群馬県高崎市)  
児島 満さん (宮崎県宮崎市)  
齋藤 哲哉さん (北海道小樽市)  
新田 憲明さん (香川県東かがわ市)  
日高 美明さん (大阪府豊中市)  
三枝 淳一さん (福岡県福岡市)  
三巻 靖子さん (新潟県三条市)  
三巻 保征さん (新潟県三条市)  
山崎 哲也さん (福岡県北九州市)  
銀 やん まさん (大阪府大阪市)  
(ペンネーム)

#### 歌詞優秀賞

門多 智輝さん (菅田町菅田)  
川元 歩己さん (大 洲)  
武田 倫実さん (大 洲)  
竹本 実子さん (肱川町名荷谷)  
眞木 文美さん (田 口)  
荒尾 洋一さん (宮崎県川南町)  
大竹 敏雄さん (石川県津幡町)  
岡西 通雄さん (東京都町田市)  
工藤 律夫さん (北海道帯広市)  
三上 博司さん (大阪府大阪市)

シンボル・ロゴ組み合わせ例



#### 「100年後僕らは…大洲より」

100年後僕らは  
生まれ変わるだろうか  
もしも鳥になったら  
つばさ広げ思い出を巡ってみたい

100年後僕らは  
生まれ変わるだろうか  
もしも魚になったら  
光はねる肱川を旅してみたい  
この町に生まれて良かった  
寄り添える人がいる  
大洲が大好きです  
おなじ空の下  
大洲が大好きです  
夢を胸に抱いて

※

100年後僕らは  
生まれ変わるだろうか  
もしも虫になったら  
恋の明かり思い切り点してみたい

100年後僕らは  
生まれ変わるだろうか  
もしも風になったら  
君の笑顔もう一度探しに行くよ  
移りゆく季節のほとりで  
かみしめるこの命  
大洲が大好きです  
おなじ道の上  
大洲が大好きです  
胸に刻むメモリー

(※くりかえし)

## 青年海外協力隊員表敬訪問

青年海外協力隊平成26年度3次隊の一員として、大洲市柚木出身の藤本顕允あきまささんがアフリカ西部の国セネガルに派遣されることになりました。

派遣期間は、平成27年1月から29年1月までの2年間で、派遣先のセネガルでは、主にファティック州水維持管理センターで、給水施設の設置および修理、管理・運営などを行う予定になっています。

昨年12月24日(水)に市役所を訪れた藤本さんは、清水市長から「日本の文化や考え方などの良いところを発信し、現地ではリーダーシップをとってほしい。また、今回の派遣で得たものを持ち帰り、活躍していただきたい。無理をせず、体調管理に気をつけて頑張ってください」と激励を受けました。

藤本さんは「大洲市から参加した先輩の話を聞いて、協力隊に興味と憧れを抱くようになった。今はフランス語を勉強中で、現地の言葉にも早く慣れたい。セネガルでは、まずは体調に留意し元気で活動することが目標。活動期間の2年間で、一人でも多くの人を安全な水にアクセスできるようにしたい」と抱負や意気込みを語られました。



## 愛媛県—おいしい米づくりを目指して ～第5回全国農業高校お米甲子園～

昨年11月23日(日)・24日(月)に、青森県で開催された「第5回全国農業高校お米甲子園」に大洲農業高等学校が出場しました。

12月18日(木)、生産科学科2年生の井上翔吾しょうごさん、上田拓海たくみさん、尾崎洸太こうたさん、久保貴弘たかひろさん、宮本雄ゆうさん、矢野一樹かずきさんが市役所を訪れ、報告会が行われました。

報告会では、「にこまる」と「媛育75号」の栽培研究に取り組んだ目的や全国大会での手応え、参加84校中上位20校に選ばれたことが報告されました。



## 社会教育活動に貢献 ～文部科学大臣社会教育功労者表彰～

国立大洲青少年交流の家研修指導員の兵頭信子のぶこさんが、社会教育功労者表彰を受賞されました。

兵頭さんは、平成6年からエアロビクスダンス研修指導員として勤務されています。青少年交流の家のエアロビクスは、集団宿泊研修プログラムの中でも、大変人気があります。

表彰を受けて兵頭さんは「踊ることが大好きで、その楽しさを多くの人に伝えるためにやってきたことが認められてとてもうれしい。支えてもらったみなさんに感謝し、これからも心と身体づくりの手伝いをしたい」と述べられました。

今回の表彰では、全国で118人が表彰されました。

